

「浜松企業の DNA から企業経営の持続可能性と CSR を探る」

担当教員名 長谷川 直哉

1 コースの概要

日 程	2013年8月7日～10日
場 所	静岡県浜松市、掛川市、湖西市
参加人数	25名

2 コースの目的

日本経済の発展に貢献した、トヨタ、ホンダ、スズキなど多くの企業の発祥の地である静岡県浜松市。この地には今も多くの企業が本社や拠点を置いています。それは何故でしょうか。このフィールドスタディでは、静岡県浜松市に本社または製造拠点を置いている企業を訪問・見学することで、この地に根付く企業の持続可能性に関する秘訣を探るとともに、地方に拠点を置く企業の経営実態を知ることを目指します。事前に訪問する企業の CSR 報告書を読むことで、訪問先企業の理念や CSR に対する理解も深めます。

3 事前学習

事前学習では、浜松地域の社会経済史、訪問企業の創業時からの歴史など地域的特性と企業活動の関係についてレクチャーを行いました。全ての経営主体は、一定の歴史的・社会的要因によって生み出されたものであり、歴史的・社会的環境と無関係な存在では決してないということ、CSR を歴史的な視点から捉える事の重要性を確認しました。

4 行程 (内容)

1 日目

午前中、東京から掛川市に移動し、午後は大日本報徳社で宮川専務理事から報徳思想の歴史と現代社会での意義についてのレクチャーを受講しました。報徳思想は二宮尊徳が提唱した思想ですが、尊徳最後の弟子であり、掛川市で大日本報徳社第二代社長として活躍した岡田良一郎の思想は浜松発祥の多くの企業家に影響を与え、現代の CSR やソーシャルビジネス源流を見出すことができます。レクチャー受講後は浜松へ移動しました。

2 日目

午前中、浜松市内のスズキ (株) 本社工場を訪問しました。同社は1909年、鈴木式織機製作所として創

業以来、自動織機、二輪車、四輪車を製造する企業です。時代とともに歩んできた創業以来の多くの製品と現在のクルマづくりの様子を学びました。ランチは舞阪港で新鮮な魚介の天井を堪能し、午後は湖西市に所在するトヨタ自動車創業者の豊田佐吉記念館 (生家跡) を訪ねました。自動織機のデモンストレーションを見学し、トヨタグループの礎となっている豊田佐吉のモノづくりの理念と企業家精神を学びました。

3 日目

午前中、浜松銘菓として有名な「うなぎパイ」を製造する春華堂のうなぎパイファクトリーを訪問し、うなぎパイの製造工程を見学しました。

午後は、本田技研工業 (株) 浜松製作所において、四輪車のトランスミッション生産ラインを見学しました。

4 日目

午前中、航空自衛隊浜松基地広報館を訪問し、航空自衛隊の業務内容に関する展示や市民とのコミュニケーションのあり方を学びました。参加者の多くが飛行服に着替えコックピットで束の間のパイロット気分を味わいました。午後は浜名湖周辺を散策し、汽水湖特有の自然環境を満喫しました。夜は、浜松餃子パーティーで懇親を深めました。

5 日目

午前中、見学した施設や組織についての感想を3分間スピーチで発表し、浜松地域で明治期に企業活動が活発になった背景や企業家の創業理念、報徳思想の現代的意義についてディスカッションを行いました。ディスカッション終了後、現地解散しました。

5 事後学習

参加者は最終日に議論した内容をより深めたレポートを作成し、事後学習において発表しました。創業者の理念を組織がどのように継承するのか、時代の変化が CSR にどのように影響するのかなどについてディスカッションを行いました。



大日本報徳社にて報徳思想を学ぶ